

一 般 質 問 通 告 事 項

(令和5年第5回白岡市議会定例会)

第1通告者

6番 野々口 眞由美 議員

1 街づくりと開発指導要綱について

開発指導要綱は法的拘束力がないために、指導に従うかは開発者に委ねられている。新白岡駅前の開発について、市の街づくりの方針も含め見解を伺う。

- (1) 開発指導要綱の目的は。
- (2) 開発指導要綱に基づく指導に従わない事項は、どのようなものがあるのか。
- (3) 新白岡駅前における開発許可基準の公平性について
- (4) 新白岡駅前の開発を含めた街づくりの方針について

2 避難行動要支援者名簿登録制度について

災害時、支援が必要な方にとって安心につながる重要な制度である。しかし、様々な課題も見受けられる。そこで、この名簿の活用や現在の課題と改善点について伺う。

- (1) この制度の目的は。
- (2) 名簿の活用と課題について
- (3) 改善点も含めた今後の取組について

第2通告者

14番 遠 藤 誠 議員

1 代表者を選ぶことについて

- (1) 行政区長会の会長選びで、旧日勝、篠津、大山3地区の代表を選び、その上で選出していた。今でもそうなのか、その理由は。
- (2) 総代方式をよく見るが、多くの会員に納得されたものなのか。
- (3) 行政区長会や農業委員会以外でもこの方式はとっているのか。

2 ドア to ドアのライフスタイルでよいのか。

- (1) 現代人の生活をドア to ドアのライフスタイルと認識して、そうでない生活を描くことも必要ではないか。

- (2) ドア to ドアの生活で作られた、個室好み、歩かない、待たない生活などを体と心の健康から考え直す必要はないか。
- 3 健全なコミュニティを保つことの責任を自治体だけに負わせるのは違うのではないか。
 - (1) 国や企業が健全なコミュニティを保つことを考えることは望めないのか。
 - (2) コミュニティの弱さが人の神経の弱さに大きく作用しているのではないか。
 - (3) 働き方改革により生み出された時間こそ使い方が問われるのではないか。

第3 通告者

1 番 尾 嶋 一 雄 議員

1 地域クラブ活動について

- (1) 学校部活動と地域クラブ活動の現状について伺う。
- (2) 県から委託を受けて行った地域移行に関する実践研究の成果をどのように考えているか。
- (3) 地域クラブ活動への移行に関する次の課題について、どのように考えているか。
 - ア 指導者の確保及び資質の向上
 - イ 活動施設の確保及び用具等の準備、管理
 - ウ 大会等の在り方
 - エ 受益者負担及び保険の在り方
- (4) 委託先団体の変更を含めた新たな体制について伺う。
- (5) 地域クラブ活動への移行における最終的な活動の着地点をどのように考えているか。

2 高齢者の健康維持に役立つ e スポーツの取組について

- (1) 高齢者を対象とした e スポーツについて、どのように考えているか。また、現在、進めている取組はあるか。
- (2) 今後、高齢者を対象に e スポーツのイベント等を定期的に企画す

ることはできないか。

- (3) eスポーツ全体としての展開について、どのように考えているか。

第4 通告者

2 番 嶋 田 友 一 郎 議 員

1 物価高騰に対する支援事業について

国による経済政策では救えない消費者・小売事業者に、市独自の支援事業を実施し、市内経済の活性化を図ってはどうか見解を伺う。

- (1) しらおか応援商品券（プレミアム付商品券）事業
- (2) スマートフォン決済事業者と連携したポイント還元事業
- (3) その他の支援事業について

2 「令和の日本型学校教育」の実施による学びの充実について

- (1) 新学習指導要領では個に応じた指導を一層重視し、「個別最適な学び」の充実を図るとともに、社会の創り手に必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要であることが示されている。本市におけるそれらの実施状況と今後の方向性について伺う。
- (2) 学校内外との連携と分担による学校マネジメントが求められている。PTA活動における課題解決に向けてPTAに地域コミュニティを加えたPTCAに移行する学校も増えてきているが、本市における今後の取組についての見解を伺う。
- (3) 先進的な取組を積極的に取り込み、本市において令和の日本型学校教育のモデル事業を実施してはいかがか。

第5 通告者

5 番 和 賀 正 義 議 員

1 駅周辺の活性化について

駅周辺の飲食店、小売店の廃業が続く中、昼間の食事所が少なく不便との声を聞く。

- (1) 駅周辺空き店舗出店支援事業の現在までの取組と現状について伺う。
- (2) 廃業や開業の相談窓口の充実についてどう考えているか。

- (3) 駅周辺空き店舗出店支援事業の補助金を受けた飲食店や小売店への開店後のフォローをどう考えているか。
- 2 白岡市役所連絡所跡地の有効活用について
 - (1) 今後の取組をどのように考えているのか。
 - (2) 市の情報発信の拠点としても考えているのか。
 - (3) 地域のコミュニティスポットとして、宅配便ロッカー、ふるさと納税自動販売機、特産品販売機等を設置し、有効活用を図ってはいかがか。
- 3 篠津地区の地域づくりについて
 - (1) 地域活動の重要性について伺う。
 - (2) 文化財の篠津の祭りについて
 - ア 文化継承と市の取組について伺う。
 - イ 祭りの知名度の向上（観光資源としての活用）と経済効果について伺う。

第6 通告者

3 番 細 井 藤 夫 議員

- 1 新型コロナウイルス感染症対策貸付の市内経済への影響はどうか。
 - (1) ゼロゼロ融資の返済が困難となった経営者に対し、借換えが実現できるようサポートすることが廃業件数を減少させると考えるが、対応はどう考えているか。
 - (2) 勤め先が倒産・廃業をした際に、労働者の再就職が問題になる。求職支援等の対応はどう考えているか。
- 2 公共交通政策の見直しを考えているか。
 - (1) 「けんちゃんバス」白岡中央総合病院～東伸団地線が令和6年2月末で廃止になるが、その理由を市としてどのように考えているか。
 - (2) 「のりあい交通」の利用客は年々増加している。今後の施策をどうするか。
- 3 「こどもの居場所」をどう考えているか。
 - (1) 埼玉県議会における虐待禁止条例の一部を改正する条例案について、市としてどのように感じたか。

- (2) 子どもが成長し自立する過程における各家庭での取組を地域ぐるみで温かく見守ることについて、安全性の確保を含めてどう考えるか。
- (3) 虐待のない白岡を目指すためにも、育児の悩みを気軽に相談できる環境と子どもたちが親に遠慮することなく相談できる環境の両方が必要だと考えるが、今後の取組をどう考えているか。

第7 通告者

17番 江原浩之 議員

1 白岡市災害廃棄物処理計画について

- (1) 白岡市災害廃棄物処理計画は、当市の実情に即した内容となっているのか。
- (2) 災害廃棄物の集積所確保とその仮置場を市民に公表し、災害廃棄物の受け入れ先を明確にしておく必要があるのではないか。
- (3) 本計画の見直しをどのように考えているのか。

2 都市計画道路白岡駅西口線について

- (1) 白岡駅西口駅前広場と白岡駅西口線について、一部区間は整備完了しているが、用地取得の進捗率については。
- (2) 白岡駅西口線の整備費用については。
- (3) 今後の整備スケジュールについて、また、用地取得等に当たり補助金の活用や、どのように権利者と交渉していくのか。

第8 通告者

13番 菱沼あゆ美 議員

1 健康と福祉に関する施策・支援について

(1) 骨粗しょう症予防

ア 骨密度測定の最近の実績は。

イ 骨粗しょう症の予防のためにも、若い時からの骨密度測定を受けることが大事である。測定日は年に2回だが、回数を増やしてはどうか。また、「二十歳のつどい」を周知のチャンスとしてはどうか。

(2) 高次脳機能障害への支援

ア 相談件数はどうなっているか。今後は、一人でも多くの人が相談などにつながるように、支援策を作るとともに、周知の工夫が必要と考えるがいかがか。

イ 症状が認知症と似ていることから、地域包括支援センターや関係機関との連携を強化していくことが重要ではないか。

(3) 障害者等日常生活用具給付事業の中で、ストーマ装具は障害者手帳を有する方のみが対象者になっている。一時的にストーマ装着する方へも、給付を行えないか。

2 学校でのてんかん発作対応について

(1) 小中学校で、てんかん発作のリスクを抱えている児童・生徒はどう把握されているか。その人数は。

(2) てんかん発作を起こした場合、教職員等が発作を抑える治療薬を投与できると国からの事務連絡が出された。学校へはどのように伝達されているか。

(3) かかりつけ医と保護者、教職員の連携はされているか。また、研修などはどうされているか。薬の保管、医療的情報の管理などの体制は。

3 「生命の安全教育」について

(1) 文部科学省が推進する『子ども達が性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないための「生命の安全教育」』の白岡市における推進状況を伺う。

(2) 教材はどのようなものを使用しているか。

(3) 今後の課題や取組は。また、養護教諭や教職員などに外部専門家などの講師を招いて、研修を行ってはいかがか。

4 公共施設に関する課題について

(1) 中央公民館では、駐車場が不足している状況にあるのではないか。解決策は考えているか。特にイベント時には、一時的でも確保ができないか。

(2) 勤労者体育センターでは、エアコン設置が課題である。今後の設置予定はないか。

第9 通告者

16 番 黒 須 大 一 郎 議 員

- 1 市長の政治姿勢（就任から3年、4つの約束）を問う。
 - (1) 市長選で4つの約束を掲げた。就任3年で成し得た、又は、着手したと考える事業等は具体的に何か。
 - (2) 停滞しているこの状況を動かすとしたが、停滞はどこでどう動かしたのか。それについて具体的に伺う。
 - (3) 誰もが安心して住める白岡を創るとした政策で、小中学校の教育環境の整備とは、大山小学校の廃校を指していたのか。
 - (4) 4つの約束を柱とした事業推進計画を市民が理解し易いように具体的な事業等を明示して行うべきかと考えるが、いかがか。
 - (5) 「4つの約束・動くぞ白岡」の next step は、具体的に何か。
- 2 どうなる大山地域
 - (1) 大山小学校を令和7年3月31日に廃校とする議案が今定例会に提出された。今後どのようなスケジュールで廃校にしていくのか。
 - (2) 現在の第3期白岡市教育振興基本計画は、どうなるのか。
 - (3) 大山地域で廃校反対が多数を占めているが、どのような地域振興策を図っていくのか。
 - (4) 地域格差を生まない・感じさせないバランスの良い市政をどのように進めていくのか。具体的な方針・方策を示す時だが。

第10 通告者

7 番 石 渡 征 浩 議 員

- 1 システムの標準化とベンダー集約について
 - (1) システムを運用していく上での現状の課題をどう捉えているか。
 - (2) 基幹系におけるシステムベンダーとの現状の契約形態はどのようなになっているか。
 - (3) システム運用コストの削減のためには、何が必要と考えているか。
 - (4) 標準化に向けたシステム移行は、どのような手順で行うのか。
 - (5) 標準化のメリットをどう捉えているか。
 - (6) 現行のシステムを仮に継続する場合と標準化・共通化システムへ

移行する場合のそれぞれについて、イニシャルコストとランニングコストはどのくらいか。

2 行財政改革の成果とは

- (1) 行財政改革の成果は、どのような基準で算出しているのか。
- (2) 行財政改革の成果は、どれくらいか。

令和4年度実績、令和5年度見通し、それぞれについて伺う。

3 令和6年度予算案の事前提示についての検討結果は

令和6年度予算の主な事務事業の事前提示についての検討結果は、どうなっているか。

第11通告者

12番 中山 廣子 議員

1 乳幼児医療費助成の拡充について

- (1) 助成拡充の具体的な内容と影響額を伺う。
- (2) 現段階で、この助成拡充を本市としてはどのように考えているか伺う。

2 妊娠期からの切れ目のない支援について

- (1) 本市の「出産・子育て応援事業」の現在の事業内容を伺う。
- (2) こども家庭庁は、2023年度、産後ケアの利用料減免の対象を全産婦に広げ、利用しやすいようにした。本市の産後ケア事業について伺う。

3 学校施設の安全で快適なトイレ整備等について

- (1) 学校トイレの洋式化に合わせたバリアフリートイレ等の整備推進について伺う。

ア 本市の学校トイレの洋式化の現状と今後の計画について伺う。

イ 学校トイレの洋式化を計画的に着実に推進すると同時に、バリアフリートイレ、シャワー付きトイレの整備も合わせて推進すべきと考えるが、その現状と今後の計画について伺う。

- (2) 安全で安心な避難所のトイレの整備について伺う。

災害時に避難所となる学校施設の災害対策機能の強化の一環として、総務省の防災減災対策債を活用して、バリアフリートイレやシ

ャワー付きトイレの設置促進に取り組むことが必要と考えるがいかがか。

第 1 2 通告者

8 番 中 村 匡 志 議員

1 職員の待遇について

- (1) 平均年収について（階級別・年代別）。
- (2) 地方公務員法第 2 4 条の解釈について伺う。
- (3) 今後の展望について伺う。

2 市の給付行政について

- (1) 以下の各給付につき、業務の内容・人員・I T 化・オートメーションの観点から伺う。

ア 国民年金／国民健康保険・後期高齢者医療制度

イ こども医療費／児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当／
幼児教育・保育無償化

- (2) 給付に関する会計課の業務につき、同様の観点から伺う。
- (3) 「給付課」を新設するメリットとデメリットは。
- (4) 有資格人材を積極的に登用してはいかがか。

3 市政における R P A と生成 A I の活用について

- (1) 各技術の実用性の現状について。
- (2) 実際の導入・活用について。
- (3) コスト（時間）削減効果について。
- (4) もしまだであれば、導入の意思について。

4 市長の組織改革について

- (1) 改革継続の意思を伺う。
- (2) 保険年金課の国民年金業務の市民課への統合について。
- (3) 税務課の「歳入課」への改組について。
- (4) I T 人材を積極的に登用してはいかがか。

5 水道・公共下水道・農業集落排水の会計の統合について

- (1) 地方財政法第 6 条の解釈について。
- (2) 公社の場合にはいかがか。

6 市税の減税について

- (1) 普通税の減税について。
- (2) 目的税の減税について。

7 市民からの要望について

- (1) 農業用パイプラインの電気代について。
- (2) 大山地域に関する市の収支について。また、地方自治法第209条第2項について。
- (3) スクールロイヤールの配置について。
- (4) 中学校の歴史教科書の採択基準について。
- (5) こども家庭センターについて。

8 国歌斉唱について

- (1) 学校運動会について。
- (2) 消防特別点検について。

第13 通告者

9 番 齋 藤 信 治 議員

1 人権意識の醸成のために

10月5日越谷市において埼葛人権を考える集いが開催された。人権意識の醸成を目的に実施された。

- (1) このイベントが人権意識の醸成にどれだけ資しているのか、市の見解を問う。
- (2) 異質なものへの攻撃こそ人権問題として考慮すべきと考える。被差別部落、在日コリアン、外国人労働者、LGBT当事者など守るべき人権は多数ある。こうした人々の人権について周知させるには、どうすればよいと考えるか。
- (3) 子どもたちの人権メッセージが多数貼り出されている。しかし、子どもたちは、自身の権利について知っているのだろうか。教師は、保護者はどうか。子どもの権利の理解のためにどうすればよいと考えるか。
- (4) 小さい人（貧しい人、弱い人、虐げられている人など）の声を聴くために、人権を守るためにどうすればよいと考えるか。

2 大山小学校を先に進めるために

大山小学校の統廃合に向けて地域・保護者が動揺している。しかし、考えるべきことは、子どもの最善の利益である。

- (1) 小規模特認校としての実態を検証・総括すべきである。
- (2) 何回か説明会が開催されたが、聞こえてくるのは同じような声ばかり。発言できない人々、小さな人は大山地区にもいる。小さな人がどれだけいるのか確認する。また、その声を聴き向かうべき方向を見定めるべきである。

第14 通告者

15番 中川幸廣 議員

1 ビジネスケアラーについて

家族の介護のため、ビジネスマンが会社を退社する例が増加している。どの業界でも人手不足で困っている中での退社は人手不足に拍車をかける。また、市民が職を失えば税収確保の点からもマイナス材料となる。これらの点から以下について伺う。

- (1) ビジネスケアラーから福祉関係の窓口には相談が来るのか。
- (2) 市内にはビジネスケアラーが何人くらいいると認識しているか。
- (3) それらの人達に対する支援方法等と内容について伺う。

2 特定妊婦について

予期しない妊娠や貧困などで子どもを育てるのが難しく、出産前から支援が必要と行政に認定される「特定妊婦」。ここ10年で8倍の8,200人に増加しているとのことだが、以下について伺う。

- (1) 市内には今まで「特定妊婦」に認定されている妊婦の方はいたか。
- (2) 特定妊婦の方がいた場合、その対応は少子化対策からも大事な問題と考えるが、市の対応としてはどのようなことを行うのか伺う。

第15 通告者

10番 加藤一生 議員

1 歩行者の歩道通行の徹底を図る方策について

市内で車歩道分離がなされた道路において、車道を歩く歩行者がま

だ多数見受けられる。市として、歩行者の歩道通行を徹底させる方策をどう考え実行するのか。

2 大山地区の活性化のために市はどのような施策を考えているか。

学校は時において地域コミュニティの拠点となる場合がある。大山小学校は文字どおりこれに当たる。そこで、大山地区に学校がなくなってしまうと、ますます大山地区の過疎化が進行すると考えられるが、これに対する施策は何か考えているのか。同時に、大山地区とJRの駅等を結ぶ交通手段については何か検討しているのか。